

平成18年7月豪雨災害から10年シンポジウム「当時を振り返り、今何をすべきか考える」

出雲河川事務所

- 今年、平成18年7月に島根県東部を襲った豪雨災害から10年目の節目であり、当時を振り返り、今、またはこれから何をすべきか地域の皆さんと一緒に考えるきっかけとしてシンポジウムを開催。
- 松江工業高等専門学校の浅田教授から、住民避難に関する問題点とあるべき対応について講演。
- 松江市長、出雲市長、雲南市長、浅田教授、出雲河川事務所長によるパネルディスカッションにおいては、平成18年7月豪雨災害を振り返り、今年の6月に公表した想定最大規模降雨における浸水想定を踏まえ、7月にまとめた「斐伊川流域の減災に係る取組方針」から重点的に対応を図るべき内容について、公開討論。
- 会場内では、水防災意識社会再構築ビジョンに基づく「斐伊川水系大規模氾濫時の減災対策協議会（松江市、出雲市、雲南市、出雲河川事務所、松江国道事務所、松江地方气象台）」の取り組み内容等をパネルで紹介。

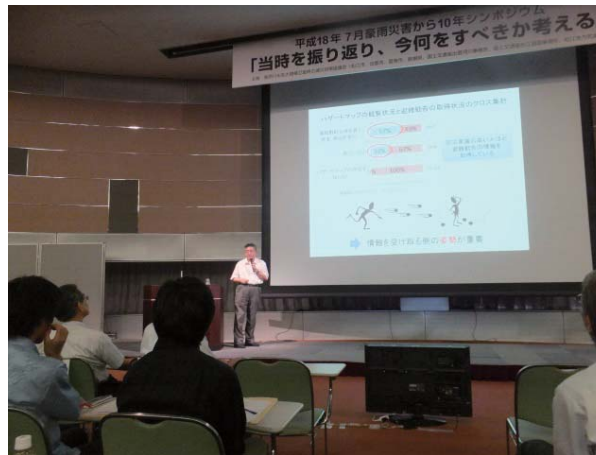
【概要】

日時：平成28年7月18日（月・祝）

会場：松江市（くにびきメッセ）

参加者：約300人

主催：斐伊川水系大規模氾濫時の減災対策協議会



基調講演（松江高専 浅田教授）



パネル展示



来場者は300人を超えた



パネルディスカッション（松江市長、出雲市長、雲南市長）



パネルディスカッション（浅田教授、出雲河川事務所長）

「斐伊川流域の減災に係る取組方針」のPR

出雲河川事務所

①シンポジウムにおけるパネルディスカッションにおいて、松江市長、出雲市長、雲南市長、出雲河川事務所長、学識者を交え、各自治体における取組内容について公開討論。

【首長のコメント】

・松江市長

防災リーダーの発掘・育成に取り組むとともに、企業や事業所において浸水対策を強化してほしい。また、ハード対策も重要で大橋川改修をしっかり進めなければいけない。

・出雲市長

防災メール登録者の拡大やハザードマップの見直しに取り組むとともに、大橋川改修についても予算を確保し進めてほしい。

・雲南市長

自主防災組織の育成強化や要支援者の避難支援に取り組んでいる。また、「津波てんでんこ」のような各家庭での自主的避難の徹底が重要。



パネルディスカッション

②取組方針の内容をパネル展示し、一般向けにPR。また、取組方針の冊子をパネル展示コーナーに設置し、希望者へ配布。(約100部配布)



取組方針のパネル展示



パネル展示の状況



希望者へ取組方針本文の配布